

一、次の①～⑤の文の――線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① スピーチコンテストに向けて、練習にヨネンがない。
- ② 去年の優勝者は頭の回転が早く、そのスピーチもキチに富んだものだった。
- ③ 先生の言葉にハツブンして猛練習した。
- ④ 優勝候補が出場を取りやめたと聞いて、耳をウタガった。
- ⑤ 今年のコンテストが激戦になるのはヒツシだ。

二、次の①～⑤の文の「」には、「ある」に関係する言葉が入ります。例にならってひらがなで答えなさい。ただし、それぞれの言葉は、「」内の字数になるものとします。

例		
研究室には「あり	」実験道具がそろっている。	[7] (答) ありとあらゆる

- ① 彼は「あり」体力を武器に、精力的に研究に取り組んだ。 [5]
- ② 父は「あり」の材料で、ちよつとした夜食を作るのがうまい。 [5]
- ③ 写真を見ると、先生の「あり」日の姿をしのぶことができる。 [3]
- ④ 事件の真相を「あり」に語った。 [5]
- ⑤ なんとか知らせようと思って、「あら」の声を出して叫んだ。 [6]

三、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

決まりきった、パターン化されたやりとりの例としては、あいさつがあります。日本語でときどき、

「どうも、どうも」と言いますね。「どうも」のあとには何か省略されているのですが、^①たいていの場合、いちいち何が省略されているのかわかって、真剣に考えている人はほとんどいないのではないのでしょうか。「どうも、ありがとう」とか「どうも、お疲れさま」とか、その場の状況によって、省略されたメッセージは変わりますが、何が省略されていても、それこそ、もうどちらでもいいような感じ

です。
この「どうも」の例などは、ことばによる実質的な情報の伝達というよりも、「あなたがそこにいることをわかっています、認識しています」とか、「あいさつが必要な場面だとわきまえています」程度の意味合いを伝えると思われる。だから、「どうも、どうも」と言いながら部屋に入ってきた人には、受け手のほうも「ああ、どうも」と答えておけば、とくに差し障りはないのです。

英語の「*ハウ・アー・ユー (How are you?)」という表現も似たところがあります。私自身も経験がありますが、アメリカの大学の*キャンパスなどで知り合いに会って、通りすがりに「ハウ・アー・ユー?」と言っても、相手は何も答えずにつこり笑って手をちよつとあげただけで行ってしまうことがあります。実質的な答えを要求している質問というよりも、「あなたがいることをわかっていますよ」という意味なので、視線を合わせてつこり手をあげただけでも、「ええ、こちらあなたがい

(1-2)

じめた店内、ほかにあいている席はありません。二人は、あなたのいる四人用のテーブルに自分たちのトレイを置き、あなたのむかい側にすわります。あなたは二人をちらつと見ます。でも、二人はあなたにとくに声をかけるでもなく、黙って腰をおろしました。

あなたならどう感じますか。ひと声かけてくれてもいいのに、と感じますか。それとも、相手が声をかけないことや、自分と視線を合わせないことに、むしろほつとしますか。逆の立場ならどうでしょうか。ほかの人が一人すわっているところへ、自分があとから行く場合、声をかけてからすわりますか。それとも、本を読んでいる相手に遠慮して、そつとしておいてあげようと思つて、黙つてすわりますか。

実はこの例は、*タネンがアメリカ人とイギリス人の間のやりとりとして紹介していたものです。さきにすわっていた方の客はイギリスを旅行中のアメリカ人、あとから入つてきて、黙つて席についたのがイギリス人でした。アメリカ人の方は、こんな状況では、声をかけるのが^②自分たちの文化では礼儀と思つていて、何も言わないイギリス人のことを失礼だと感じました。一方のイギリス人は、何も好き好んでその席に來たわけではなく、ほかにあいていないので仕方なく同席させてもらうことになったわけですね。そんなとき、あたかもお互いの存在に気づかないかのようにふるまうことで、^③相手への配慮を示そうと思つていたようです。何も言わなかったのは「どうぞ私たちにおかまいなく」という意味だったのです。^④このような結論の積み重ねは、やがて一部のグループの人々に対する誤解・偏見につながっていくこともあります。

(1-3)

私の授業で、日本大学生にこのような場面はどう感じるか、自分ならどうするかを聞いてみました。ファストフード店では一応声をかける、という人が多かったのですが、学生食堂のような場所では声をかけないだろうという人がけっこういました。テーブルの大きさも影響するようです。また、本を読んでいるときにいちいち声をかけられるのはちよつといや、という人もいました。

このように、どんな場面のことばを使うか、使わないかは、文化によつても期待されているものがあります。また、国によらず、同じ国、同じ社会に生きる人どうしても、地方、家族、さらには個人によつて好みに差があります。

ということは、相手とのずれを感じて居心地が悪かったり、だれかを「理解したい」と思つたとき、一人ひとりの会話のスタイルとでもいうべきものについて、考えてみる必要があるのではないのでしょうか。自分やまわりの人々が、日頃、無意識にしている会話を少し深く考えてみると、意外な素顔がみえることもあります。

さて、会話のなかで、どれだけたくさんしゃべるか。それは長々としゃべりたいかどうかだけでなく、どれだけ自分で、自分の意見を最後まで言いきりたいか、ということも含んでいます。あなたはどのようにしよう。人と話すとき、できれば全部言わずに相手に察してもらいたいのですか。それとも「このくらいは言わなくても察してくれるだろう」と期待しがちですか。また言おうとすることは、主語や目的語も含めて、言葉を補って説明するタイプですか。たくさん省略しますか。このようにそれぞれの情報を自分自身で補いたいのか、ということ一つをとってもさまざまなタイプがあります。

ある夫婦のうち、夫はどちらかというと妻に察してもらいたいタイプでした。全部を自分で言いきるよりは、途中でことばをやめて、「……」ですませる人です。同時に彼は、相手の言おうとすること

を察するのも上手で、相手が最後まで言わなくても、意図をくんで補ってくれる、気配りタイプです。一方、妻の方は一つのことを伝える場合でも、ことばをたくさん補いたいタイプでした。言いたいことは自分で最後まで言わせてほしいし、相手が話しているときにも、最後まで相手に話させてあげようと考えます。相手が言い終わるまで、待っていてあげるのが礼儀であり、^⑤相手への配慮だと思っています。夫婦であつても、こんなに話し方ががちがうし、省略することへの期待もちがうのです。そんな二人が夕飯を囲みながら話していました。実際にあつた、二人の会話をちよつと聞いてみましょう。話題は「自分たちのようなギャグ好きの夫婦はほかにはいない」という^⑥たわいのないことなのですが……。

(1-4)

妻「夫婦そろってギャグ好きの——」

夫「そうそう、いないからね、ほかには」

「五秒間の沈黙」

この五秒間の沈黙はなんだつたのでしょうか。あとでこの会話の録音をそれぞれに聞いてもらい、インタビューしてみました。そこでわかつたことなのですが、妻は自分で「ギャグ好きの」のあとを言いたかつたのです。でも、夫に言葉を補われてしまった。そこで、「あくあ、自分で最後まで言いたかつたのに」という気持ちが残りました。その残念な気持ちがすぐあとの「五秒間の沈黙」になって表れているのです。おおげさな言い方をすれば、「話す権利を奪われた」、「話す順番は自分だつたのに横どりされた」と感じたのです。つまり妻の方は、いわゆる「A」と受けとつたわけです。

一方、夫の方の立場に立つてながめてみると、ちよつとちがつた景色が見えてきます。夫は妻に対して、「全部を言わなくても、僕は君の言いたいことがわかるよ」という気配りを示していたと考えられ

るのです。言わなくてもわかりあえる。共通の基盤をもち、情報をたくさん共有している二人だから、言おうとしていることを察することができる。そんな親しさの合図でもあつたのです。

もちろん、もう一つ別の意図として、「わかっているから、それ以上言わなくていい」「君はいつもしゃべりすぎ」ということを暗に伝えている可能性もあります。

実際夫は、この二つの意図、つまり「言わなくてもわかりあえる。君の言いたいことをちゃんと察しているよ」という親しさの合図と、「わかっているからもういいよ」という、相手へのストップの意図の両方をこめて話していたようです。それでも、妻がこのとき「B」と感じていたこと、「ほんとうは自分で最後までしゃべりたかつた」と残念に思つて沈黙していたことを知り、ちよつと驚いていました。妻に沈黙の真意を確かめて、はじめてわかつたことでした。

* さきほどは、共有する沈黙で「わかりあつている」親密感を確認しあう例についてお話ししましたが、^⑦こちらは、沈黙を共有していない、互いの沈黙の意味がずれている例ということになります。どちらも身近に経験されていることではありませんか。

(饒平名尚子『言わなかつたことば 沈黙もコミュニケーション』による)

※問題作成の都合から一部原文の表記を改めた。

(注) *1 ハウ・アー・ユー……英語の挨拶。「調子はどうですか」という意味。

*2 キャンパス……大学などの敷地。

*3 タネン……デボラ・タネン。アメリカの言語学者。

*4 さきほどはくお話ししました……「さきほど」という言葉が示している具体的な例は、問題文では省略されている。

(1-5)

問五 —— 線部⑥に「たわいのない」とありますが、この言葉を本文中と同じ意味で使っている文として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アメリカからの留学生は、たわいのない日本語で自己紹介をした。

イ 英語に自信がない僕は、たわいのない態度で彼に接した。

ウ 帰りの電車の中で、彼はたわいのない姿で居眠りをしていた。

エ ようやく友だちになれたのに、たわいのない理由でけんかしてしまった。

オ 桜が美しい日本の春は、出会いもあれば別れもあるたわいのない季節だ。

問六

A	・	B
---	---	---

 に入れる言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～オの中

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア A 口どめ B 口どめされた

イ A 押しつけ B 押しつけられた

ウ A 割りこみ B 割りこまれた

エ A あてつけ B あてつけられた

オ A からかい B からかわれた

(1-8)

問七 —— 線部⑦に「こちらは、沈黙を共有していない」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夫は妻の気持ちもわかった上であえて沈黙しているのだが、妻はその夫の配慮に賛成できないことを伝えるために沈黙しているのだということ。

イ 夫は妻に言わなくてもわかると考えて思いやりの気持ちで沈黙しているのに対し、妻は夫に対する反発心から沈黙しているのだということ。

ウ 夫と妻は、互いの気持ちをしっかりと通わせて沈黙しているのではなく、すれ違った気持ちのまま沈黙しているのだということ。

エ 夫と妻は、同意の上で沈黙しているのではなく、互いに相手に対する批判の気持ちを伝えるために沈黙しているのだということ。

オ 夫と妻は、親密さを共有しながら沈黙しているのではなく、互いの真意がどれほど異なるかに驚いたために沈黙しているのだということ。

(1-9)

問八 —— 線部に「テーブルの大きさも影響するようです」とありますが、テーブルの大きさが影響するのはどうしてだと考えられますか。「テーブルの大きさが大きければ、」に続く形で、自分の考えを簡潔に述べなさい。

四、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ノラは、茶トラの子猫だ。むくむく太ってほわほわの毛、レモン色のまん丸い目。

小村学が初めてノラを見た時、*みつばコーポラスの裏階段に、毛糸玉のようにコロんとねころがっていたつけ。ああ、かわいい！学はキュートなの子猫をひろって帰りたいくらいうずうずした。でも、悲しいことに、コーポラスは、ペット禁止だ。そして、三〇一号室に『有沢のおばあ』がいて、規則を破る人間を、*FBIばりにチェックしている！

有沢のおばあは、コーポラス*管理組合の理事長。生き物が大きらいで、うるさ型の眼鏡おばさんだ。こつそりペットを飼っている家が、おばあに見つかり、もうタイヘン！管理組合の会議にかけられて、こつそり罰金を取られた上にペットは追放、下手をすると飼い主までも追放だ。

だから、学は、ノラにエサをやるのだって、いいかげんビクビクしていた。

三階建てのコーポラスは、建物の両はしに階段がついている。みんなが使うのは、一号室の手前の表階段。十二号室の向こうの裏階段は、細長い庭をつきらないと外に出られないからえらく不便だ。

裏階段は、さびれている。人なんかめつたにこない。①のら猫と、のら猫にこつそりエサをやりたい男の子のためには、とても良い場所——きみのわるさをがまんすれば。

ベージュのペンキぬりの壁には一面にひびわれが走っている。

「三階のところにあるデカイヒビは、怪物のギザギザの歯なのよ」

学の妹のくるみは言う。

手すりのペンキもはげちよろけ。

「まだらの大蛇よ。十メートルもあるのよ。べとべとしてるし、つかむとあばれるわよ」

くるみは声をひそめる。

二階の天井には大きなクモの巣。

「毒グモよ。まちがいなし」

くるみに言わせると、いつも空気がしめっぽくて水みたいなのは、むかしむかし、裏階段はどろ沼の底だったからさうだ。

くるみは一人ではぜったいに裏階段に行かない。学がいつしよだと、ついてきて、へんな話ばかりする。いいいめいわくだ。②くるみの話なんか信じないけど、でも、やっぱり、やっぱり、裏階段は、きみわるい。

(1-10)

ノラは裏階段の二階と三階の間のおどり場で、土曜日のお昼を食べていた。お皿にはいったミルクと、ペーパータオルにのったチーズ、シヤケのきれっばし、煮干し。

「そのコは猫のふりをしてるけど、ほんとに妖怪トラトラお化けなのよ」くるみはささやいた。

学はくるみの言うことなど聞いていなかった。すっかりノラに見とれていたのだ。なんて、かわいいんだろ。あのピンクの鼻と、小さな口、すてきな金茶色の毛皮。

「飼いたいなあ。いつしよに住めたらなあ……」

学は思わずつぶやいた。その時、階段の下から足音が聞こえてきた。コツコツいうハイヒール。③きけんな足音。

「にげるっ」

学は空になったお皿をひろい、ペーパータオルをひたたくった。まだ残っていたチーズがこぼれて、ノラは不服そうにピューと鳴いた。

「ごめんね。また後で来るよ。ノラも早くにげるっ」

学は小声で言うと、バタバタ階段をかけるぼった。くるみも後ろに続いた。

三〇六号室の家に駆けこむ。くるみがボタンとドアをしめる。

「ひゃあ、お兄ちゃん！トラトラお化けがつかいてきたよう！」

くるみは悲鳴をあげた。

学がふりむくと、玄関には、ふわふわした金茶色の子猫がいて、くるみのソックスに爪をかけて引きずりおろそうとしていた。

「あれ？ノラがはいっちゃった？どうしよう」

学はさげんだが、ノラは平気な顔。くるみのソックスにはすぐにあきると、台所にすたすたといっぺっていった。学とくるみは、あわてて追いかける。

廊下に面した台所のすりガラスの窓が三センチくらいあいていた。コツコツコツと靴音が聞こえる。裏階段の足音の主だ。有沢おばあは緑のスカートと緑のハイヒールが廊下をコツコツ通ってくるのが見える。

「おばあだ。あぶねえな。なんだよ、三〇一のくせに、裏階段を使うなよな」学は口の中でつぶやいた。

(1-11)

子猫は、台所の床をころがりながら、うれしがってグルグルとのを鳴らしている。

お母さんがなんて言うかな？——学は思った。お父さんとお母さんは、親戚のおじさんの家に出かけて留守にしている。

「とにかく、もっとエサをやるうつと」

学は冷蔵庫の中を調べる。その間、ノラは流しの下をふんふんかきまわり、扉に爪をたててあけようとした。

「なんだよ。ここには包丁しかないよ」

でも、④それは学のまちがいだった。米びつのとりにジャガイモやタマネギの袋があり子猫は爪でビニールを破って、ちよいちよいとタマネギを一つ、つつきだした。

「こら。遊ぶなよ」

ノラはタマネギにじゃれついた。チョチョチョとところがし、追いかけて、爪をたて、前足でだきかかえて、後足でけとばす。

「こらっ」

学はタマネギを取りかえそうとしたが、子猫はすばやくて、サッカーボールのように前足でコントロールして、居間のほうにころがっていく。そして、タマネギもろとも、ソファの下にもぐりこんだ。学とくるみは、はらばいになってソファの下をながめた。

「ねえ、食べてるよう！」

くるみがさげんだ。

子猫はタマネギをかじっていた。前足でおさえつけて、皮の上から、カジカジカジ、木の実を食べるリスのようにかじっていた。

「うげえ」

学はうめいた。学はタマネギが大きらいで生のまま食べるなんて信じられない。

「タマネギが好きなんて、ひどい猫だなあ」

「猫はタマネギなんか食べないわっ」

くるみはきっぱりと言った。

でも、ノラはすごい食欲で、生タマネギを丸ごと一個ペロリンとたいらげてしまう。ソファから出てくると、すっかり満足した顔で大きくのびをし、おもむろに家中を探検にかかった。

(1-12)

お父さんとお母さんが帰ってきた時、ノラは藤細工の洗濯かごに丸まって眠っていた。

よごれたタオルや下着にうまった、ほわほわの茶色い子猫を、お父さんはまったく気にいなかった。

「こいつは家の中をむちゃくちゃにするぞ。ソファはボロボロ、じゅうたんはバリバリ、花びんはこなごな、おまけに猫の毛だらけでくしゃみが出る」

お母さんは近所を気にする。

「問題は有沢さんよ」

「こいつ、トラトラお化けなの。タマネギを食べるのよ！」

くるみは、わめいた。

ノラは洗濯かごの中で眠りつづけていた。まったくマイペースの子猫で、むじやきな寝顔はとてもすてきだった。

⑤学はため息をついた。

「こんなに、こんなにかわいいのに……」

家族はぶんぶんとかぶりをふった。学がどんなにがんばって説得してもむだだった。

お父さんは、猫がきらい。

お母さんは、有沢おばがこわい。

くるみは、裏階段がきらいでこわい。

子猫は目をさまして、大あくびをした。

学はそっと抱きあげて、家を出て、廊下を歩いて裏階段に向かった。くるみも後ろからついてきた。

「来るなよっ。裏階段がこわいんだろ？トラトラお化けがこわいんだろ？」

⑥学はむかつ腹をたててどなったが、くるみは二メートルくらい間をあけて、やつぱりトコトコついてきた。

裏階段の三階のおどり場に、ノラを放すと学はじわっと涙が出た。ノラは学についてきたりしたらいけなかったのだ。家にはいたり、タマネギで遊んだり、洗濯かごで寝たり……それだけで、子猫は、裏階段のノラじゃなくて、学のノラになってしまったのだ。

「おまえ、どこで寝てるの？何、食べてるの？寒かったりしない？」

学が聞くと、ノラはちよつと悲しげにヒューと鳴いて、レモン色の目を細める。

「鳴くなよ」

学は目をこすった。

(1-13)

「お兄ちゃん、泣いてるのね？」

くるみが学の顔をのぞきこんだ。

「うるせえな」

「だいじょうぶよ。トラトラお化けはいつだって、うまくやるわ」

くるみの言葉にあいづちをうつように、ノラはまたヒューと鳴いた。そして、二人に背をむけて歩きだすと、音もなくふわふわと階段を下におりていった。

六月の夕方だ。裏階段は、とりとしいた紫色にそまっていた。空気はしめつぽくて、裏庭に咲くドクダミがここまでツンツンにおった。あやしい色、あやしいにおい。

ノラが見えなくなると、くるみは学の腕にぎゅっとしがみついた。

「バカだな。何もいやしないよ」

学は言ったが、くるみはかぶりをふった。

二人は、手をつないで、裏階段からぬけだして、三〇六号室の家に帰った。

学は、それから毎日、裏階段にノラをさがしにいった。二日に一回は見つけて、エサをやることになった。タマネギ！ チーズも煮干しも食べるけど、ノラはとにかくタマネギを一番喜ぶ。

「あのねえ、学ちゃん」

日曜日の朝食の時、お母さんが言いにくそうに口をきった。

「もう、ノラにエサをやらないでほしいの。有沢さんが気がついてね。だれか、裏階段で猫にエサをやってるらしいって」

「いやだよ」

学は言った。

「ぜったいにいやだ。飼えないんだったら、エサくらいやつてもいいだろ？」

「でもねえ。ノラは自分でエサをさがすわ」

「タマネギはさがせないよ！」

学はかんかんになった。なんだって、有沢おばばの言うことばかり聞かなきゃいけないんだ！

「のら猫はあまやかしたらいけないんだぞ」

目玉焼きの黄身をスプーンですくいながらお父さんが言った。

「ねえ、引越そうよ。広くて庭があつて犬や猫の飼えるおうちにさ、有沢のおばばなんかいないところ」

(1-14)

へさ」

学が言うと、お父さんはスプーンをうつかり飲みこみそうになった。

「おまえ、オーストラリアへ行つて金塊をほりあててこい。ざつと一億円分庭つきの家の代金だ」

「ウチでは、うんとちつちやな動物を飼うのよ。お豆さんみたいな」

くるみは口の中に入れていたベイクト・ビーンズを一粒とりだした。

学はふいと席をたつて、運動靴をひっかけて外に出た。みんな、何にもわかつちやいない。ほしいのは、猫だ。それも、ただの猫じゃなくて、ノラがほしいんだ。

学は廊下を走つて裏階段へ行つた。

外は雨だった。

裏階段は、いつもより薄暗くじとじとしてうすら寒かった。学はなんだかふるえが出た。壁のひびわれや、クモの巣や、まだらの手すりを見ないようにして、⑦ 小さな声でノラを呼んだ。

(佐藤多佳子『ごきげんな裏階段』による)

※問題作成の都合から一部原文の表記を改めた。

(注) *1 みつばコーポラス……学が住んでいるアパートの名前。

*2 FBI……連邦捜査局。アメリカ合衆国の特別捜査機関。

*3 管理組合……マンションやアパートの住民によって作られた組織。

(1-15)

問一——線部①に「のら猫と、のら猫にこつそりエサをやりたい男の子のためには、とても良い場所」とありますが、それはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 部屋の中ではないので、規則でペットを飼うことを禁じられているとは言えない場所だから。

イ 暗く、薄気味悪い雰囲気^{ふくみ}がただよっているせいで、人があまり近寄らない場所だから。

ウ 規則に厳しい理事長でも、まさかそこでペットを飼っているとは思われないような場所だから。

エ 大蛇^{だいじや}や毒グモがひそむという危険そうな感じが、かえって冒険心^{ぼうけんしん}をかき立てる場所だから。

オ 建物^{たて}の一番奥^{おく}にあつて使い勝手が悪いので住民もあまり使わず、人目につきにくい場所だから。

問二——線部②に「くるみの話なんか信じない」とありますが、それはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 妹の話を信じてその言いなりになることは、兄としてのプライドを傷つけることだと思われたから。

イ くるみの根も葉もない作り話などのせいで、お気に入りの裏階段にけちをつけられるのが嫌だから。

ウ 自分の方がくるみより長くこの場所に住んでいるのに、くるみの話のような話は聞いたことがないから。

エ くるみの話は、こわがりの妹が言っていることで、現実^{げんじつ}離れた、根拠^{こんきよ}もないものと思えないから。

オ くるみの話は、兄である学^{がく}をこわがらせてからかおうとしているに過ぎないということを見ぬいているから。

(1-16)

問三——線部③に「きけんな足音」とありますが、どうして危険なのですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ハイヒールの足音の主である理事長に見つかったら、なぜ裏階段にいるのか、問いつめられるに決まっているから。

イ 冷たく響く^{ひびく}ハイヒールの足音からは、あたかも危険が忍び寄っているような響きが感じ取れたから。

ウ ハイヒールをはくような人はみんな理事長の仲間で、のら猫にエサをやっていることを理事長に知らせるに決まっているから。

エ ハイヒールの足音は規則にうるさい理事長のものかもしれない、もしのら猫にエサをやっているところを見つかったら大変だから。

オ ふだんは人が使うはずのない裏階段にハイヒールの音が聞こえるということは、不気味なことだったから。

(1-17)

問四——線部④に「それ」とありますが、その指し示す内容として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 冷蔵庫の中には包丁しか入っていないと思ったこと。

イ ノラが流しの下に何か食べ物がないかと探していると思ったこと。

ウ 流しの下にはノラに関係のあるものなど入っていないと思ったこと。

エ ノラに食べ物^えのありかなど見つけられるはずはないと思ったこと。

オ 冷蔵庫の中にはノラが好みそうな食べ物が入っていないと思ったこと。

【下書き欄】—— 必要ならば使いなさい。

ア　猫を飼うことに反対しているはずのくるみが、いつもはこわがっているはずの裏階段に猫を捨てに行く時に、見送るかのようについてきて、同情しているようなそぶりを見せたから。

イ 飼いたくてたまらなかつた猫を、しかたなく裏階段に戻しに行くことにした時に、飼うことに理不尽な反対をした妹のくるみが、なぜかついてきたから。

ウ　かわいい猫をお化け呼ばわりするだけではあきたらず、学が猫をきちんと捨てることができるか監視かんしするためについてきたくろみのことが、許せなかったから。

工猫のことなど気にしていないのに、わざわざくるみがついてきたのは、こわいもの見たさに不気味な裏階段を見ようと思つたからに違ちがひないから。

才裏階段はこわいと言つたはずなのに、猫を捨てるためにはその気味悪さも我慢してついでこようとするくるみに、言いようもない怒りをおぼえたから。

問七——線部⑦に「小さな声でノラを呼んだ」とありますが、このときの学の気持ちはどのようなものですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　父や母だけではなく妹までもがまるで他人事のようにしか考えてくれないので、堪忍袋の緒おが切れ、あわてて外に飛び出してはみたが、雨は降っているし、ノラの姿は見あたらないし、裏階段の不気味さだけが強く意識され、経験したことのないような不安に襲おそわれている。

イ 自分の気持ちをわかれうともしないみんなの鈍感さに嫌気がさし、廊下を走ってノラに会いに来てみたが、たしかに裏階段は何となく妖怪でも出てきそうで気味が悪いし、猫の世話をしようとしていることを近所の人に気づかれてしまうのではないかと不安な気持ちになっている。

ウ　実現するはずのないことを言つてごまかしてばかりの家族に愛想が尽き、部屋を飛び出して裏階段まで来てみたが、雨は降っているし、うすら寒くなつてくるし、ノラは自分のことを嫌になつてしまつたに違ひないとまで思えてきて、少し不安な気持ちになつてゐる。

工 理事長のことばかり気にして自分の気持ちを無視する家族に嫌気がさし、腹立ちまぎれに部屋を飛び出してみたが、裏階段のあたりがどろ沼ぬまの底だったところみたいに気味悪く感じられたので、ノラは本当にトラトラお化けだったのではないかとわずかな不安を感じている。

オ 自分の気持ちをまったくわかってくれない家族に対する腹立ちから、部屋を飛び出して裏階段まで来てみたが、近くにノラが見あたらないので、誰かに見つからないかという恐れや気味の悪さも手伝って、ぼんやりとした不安に襲われている。

問八 本文中では、「裏階段」はどのような場所として描かれていますか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 想像力豊かな妹の心を刺激して、ありえない話を作らせるような神秘的な魅力を持ちながら、ノラと悲しい別れを遂げるようになった、いまわしい場所。

イ 人があまり来ない、不思議な雰囲気を持たせただよわせた、日常から外れた世界であり、また一方で、ノラと初めて出会い、濃密な時間を過ごした、かけがえのない場所。

ウ 理事長に見つかりかけたり、妹に不気味な話をされたりと、恐ろしい体験もしているが、家族よりも大事なノラと思う存分遊んだ、思い出深い場所。

エ 規則違反の温床になり、また階段としての機能性も低い、困った場所であるが、好きなだけノラの世話をしてやることができた、大切な場所。

オ ノラという、現実離れた存在が家にやってくるきっかけになった、運命の場所であると同時に、仲のよかった家族とけんかするきっかけになった、因縁の場所。